

秋季号

Y-MOT ネットワーク通信 Vol. 5

(山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻)

『老化 そして 進化!』

特別寄稿

自然エネルギーを考える会 会長

梅宮 弘道 (M39卒)



家庭菜園の全景

老化ともいうが、進化とも言える。限界を知り、それにあわせて対策を練るのが、本来の進化!。農作業に止まらず、ありとあらゆる仕事に当てるはまる事象であることを、教えて頂いている。

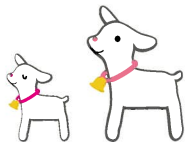
畑はこう在らねばという固定観念でことに当たると、冒頭の腰痛で一巻が終わる。歳と共に体も頭脳も変化する。

上は家庭菜園の全景、下がキャベツとコカブ。ご覧の通り、雑草の中に野菜がある。文面には、野菜を植えるところだけ耕し、雑草を抜く。後は自然任せ!。大きくなったものを感謝して頂けば良い。虫との共存、コカブの周りの雑草も、ホレ、気持ちよさそうにしているでしょう、とのこと。何時の頃からか、山本佐知雄氏は、無意識のままに不耕農法に少しずつ切り替えておられた。

私の知り合いの98歳の方が、東京渋谷でかくしゃくとして生活しておられる。毎週、ドイツ語学校に通い、ドイツの高級誌、シュピーゲルなどから抜粋された宿題を山ほど頂いて帰ってくる。当方も50代にヘルシンキで2ヶ月間フィンランド語を学んだことがあるが、異国語の学習は気合が要るし、その気合を持続するには並々ならぬ努力が求められる。それを98歳まで持続する極意は?とメールのやり取りで分析していたが、最近送られて来た左の写真で納得した。

米沢の家庭菜園は、草一本無い見事なものであるが、親しく観察していると、フト、主がいなくなる。どうしました?。腰痛を痛めて止めました。残念!!。

《自然エネルギーを考える会について》
発足して十一年目に入り、現在会員数100名、家族会員12組。会が目指すのは、「自然エネルギーを活用した年寄りの自立と、若者への伝承」を。《連絡先》0238-338-5270 梅宮まで。
①自給自足で医者要らずの日常生活。②経済自立の実践は米沢市産業祭りで。手打ち蕎麦コーナー、椎茸・山菜・平飼有精卵・手工芸品販売等々。③若者への伝承。新蕎麦を味わう会では、幼小中大学院生、主婦、じい・ばあちゃん参加で多賑わい。



キャベツとコカブ

9月27日(月)にH22年度(9月)の学位記授与式が行われました。大学院理工学研究科(MOT)の6名の皆さんも、晴れて卒業を迎えられました。前列左から、童煉さん、田村実さん、ムハマド・ズルカニンさん、簡勝浩さん、芦新慧さんです。尚、劉俊さんは所用のため欠席されました。皆様の今後の御活躍を御祈り申し上げます。



《御卒業 おめでとう御座います!》

《第五回 イブニングサロン開催》

去る7月10日(日)、第五回イブニングサロンを街中キャンパス(一階)にて開催を致しました。先生方、学生、OB、企業から30名の御参加を頂き、楽しい雰囲気の中で有意義な時間を過ごすことが出来ました。

- ① もがみイブニングサロン紹介(山形大学・高橋政幸氏)
- ② 地域金融機関の取り組み(荘内銀行・白澤司郎氏)
- ③ 助成事業活用及び産学官連携支援(山形県産業技術振興機構・江口幸也氏)
- ④ 最強ビジネスツール、和尚しな名刺！(川島印刷・堀川正和氏)

是非次回も、大勢の皆様の御参加を御待ち致しております。



司会・齊藤真幸氏



「学金連携システムネットワークコーディネーターの高橋氏より、活発な活動を継続している「もがみイブニングサロン」についての紹介と、今後の取り組みについて発表を頂いた。

また、最上サテライトの開設を機に、産学連携の場としての「最上夜学」を開設。参加者は産業界、地方公共団体、試験研究機関、金融機関等、多彩なネットワークを構築している。

荘内銀行法人営業部の白澤氏(MOT2期生)より、地域金融機関としての取事業内容及び「学金連携システムネットワーク」の取り組みについての紹介があった。

県産業技術振興機構の江口氏(MOT2期生)からは、県の助成事業について詳細な紹介と支援内容(事前調査、研究開発、事業化、課題解決)及び活用事例の紹介。



川島印刷の堀川氏(MOT6期生)から、自社の概要の紹介及び新商品の「和尚しな名刺」についての開発経緯や販売についての紹介。



また、小林光弘氏(小林豆腐店)から沢山の豪華な商品(試食)の提供がありました。おいしい豆腐の各種・つけもの類で、お蔭様で楽しいひと時となりました、有難う御座いました。



「コーヒーブレイクでこんにちは！」

葛西 聖仁さん MOT 第3期生

山形大学工学部施設管理のチームリーダーをされているMOT3期生の葛西聖仁さんです。海が好きで、趣味はお二人で海つりに行かれること。先日はイカ釣りを、これからはすずきや黒鯛のおいしいシーズンだそうです。取材に伺った日は、100周年記念会館のお披露目でした。同窓会エリアや見晴らしのよいカフェもあり、OBの方々もご家族でどうぞと笑顔で御案内を頂きました。

(インタビュー：黒田三佳編集委員)





『私とMOT』 シリーズ編

MOTアジア人材コース 一期生

簡 勝浩

・MOT入学の動機は？

2008年6月のある日、北京航空航天大学大学院1年生の私は、学校のホームページで山形大学MOT技術経営専攻が留学生を募集している知らせを見ました。応募書類の締切日は翌日でした。

山形大学がどのような大学なのか、MOTはどういう専門なのかについては全然知りませんでした。が、直感的に「これ、いいチャンスだ！」と思い、急いで書類を準備しました。このように、私とMOTの出会いが突然やって来まして、入学したら？

振り返ってみたら、生産管理を専攻していた私にとって、当時の選択が正確だとわかりました。多数の先生が企業経営の経験者であり、講義の内容が生産現場に近いことです。そして、企業の現実問題を理解するための見学も多いです。MOTを専攻したことによって、私は中国の修士向けの教育と大きく違う教育を受けました。

また、山形大学へ入学したことをきっかけとして、日本語の勉強を始め、日本の文化を理解するもうひとつの扉が開きました。もちろん、ひとつの民族の文化を理解するために2年間はまだまだ足りないと思いますが、日本で就職したので、これからも一人の人間として、日本文化をより深く理解してゆきたいと考えております。

・ご家族の反応は？

日本で留学することは、私の家族にも大きな影響がありました。2年前まで、40歳代後半の両親がわかる日本のことは、大体戦争の話だけでしたが、現在は民主党の選挙まで知るようにになりました。

息子が日本に行ったので、自然に日本に関する情報に注目するようになったのでしょうか。また、私が撮った写真を見たり、日本のことを聞いたりしている7歳下の弟が、「大学を出たら日本に留学したい」と言っていました。MOTでの留学が家族にも新しい風を吹き込んだのではないのでしょうか。

・残念なことは？

ひとつだけ残念だと思うのは、日本人の学生とのコミュニケーションが少なかったことです。日本語がわからないという客観的な原因がある一方、人見知り、勇気不足などの原因もあると思います。

せっかく日本に来たのに、本当に遺憾だと感じております。幸いなことにこれからはまだチャンスがあります。

・後輩へ一言

後輩の留学生に一言と言ったら、「勇気を出して日本人の学生と多くコミュニケーションをしよう」ということです。

今月いっぱい、学生時代が終わります。これからの仕事では、MOTで受けた教育と中国で勉強したことを融合し、頑張つてゆきたいと考えております。

「産学交流夏季セミナー」に共催！

米沢電機工業会(開発部会)主催、山形大学共同研究組織(YURNS)共催の産学交流夏季セミナーが8月26日(木)、サンルートにて開催されました。

当(NPO法人)Y-MOTネットワークも、(財)東北活性化研究センターからの地域交流事業に対する支援補助を受けて、共催をさせて頂きました。

本セミナーは、二十数年に渡り継続して実施されてきたセミナーであり、地域交流にも大きな成果をあげており、60名を超える方々の御参加を頂きました。

《セミナー内容》

①山大認定産学金コディネーター制度紹介

加藤博良氏(山大大国際事業化研究センター・連携推進研究員)

②バリなし加工法の事例と事故未然防止取組み

金子修博氏(株ソルテック・金型部サブリーダー)

③金属材料の微視組織から塑性加工を科学！

吉田健吾氏(山大大学院理工学研究科機械システム工学専攻・助教)

④QCDSの向上対策(現場カイゼンと人材育成)

山口俊憲氏(県立産業技術短大・産業技術専攻科主任講師)

⑤成形部品の品質改善。

内藤一美氏(株コアタック製造部グループマネージャー)

尚、セミナー終了後、懇親会が行われました。



↑ 山口俊憲氏(産業技術短大)

↓ 内藤一美氏(株コアタック)



原田開発部会長の挨拶





「MOT広場」新企画！自由投稿のページです。

堀川正和さん(M-1)からの会社紹介・新商品の紹介です！

堀川島印刷は創業以来、約60年の歴史を米沢ともに歩んで参りました。

現在は長引く不況により、印刷業界も先行きの見えない不安に包まれておりますが、しっかりとその危機感を持って貸しても鈍せず、前向きに日々の業務に邁進しております。

川島印刷は「お客様の立場で考え行動する」「地域社会に貢献する企業を目指す」等を経営方針に掲げ、いかにお客様の期待を上回る仕事が出来るか、地元の活性化にどう繋げられるかを社員一人ひとりが常に意識をして仕事に取り組めるよう努めております。

株式会社 川島印刷 概要	
住所	山形県米沢市大字花沢221-2
TEL	0238-21-5511
FAX	0238-21-5514
創業	昭和22年4月1日
立	昭和56年7月1日
資本金	2,000万円
代表取締役	川島良嗣
他2名	
社員数	44名

和尚さん×川島印刷米沢発!!御祈禱名刺

和尚しな名刺

うちの常務は和尚さん

和尚さんが「おしようにしな」の気持ちを含めて御祈禱します！



この名刺のすごいところは、御祈禱して納品すること！何を隠そう、川島印刷の常務・実は和尚さんなんです(笑)。名刺をご注文のお客様は、もちろん、名刺を渡す相手の方までの商売繁盛やご成功を願ひ、御祈禱しております。印刷会社に勤務する和尚さんとコラボして出来た、話題性バツグンの名刺！このご利益満天のツールで地元企業を応援していきます！

※「おしようにしな」とは、米沢弁で「ありがたう」を意味します。



行動することでチャンスをつかむ!!

本年度MOT・M1の堀川です。よろしくお願ひいたします。昨今は先行きの見えない不況に、社会に急速な変化が起きて、不安定な時代ですが、逆に言えば世の中が混沌としている今だからこそ行動するチャンスなのではないのかと日々考えています。

も「チャンスはつかむ用意のある者だけが手にできる」という言葉を残しています。この一文から「チャンスが降ってきた」として、日々の努力や行動を怠っていない人間ではそのチャンスを生かすことはできませんよ」というメッセージを私は受け取りました。以上の事から、今後MOTでの実践目標の一つとして、努力や行動の方向性を更にフォーカスしていきたいと思ひます。

MOT事務局便り

MOT事務局より大学の動きやMOT専攻に関わる情報をお知らせ致します。

・十月十七日(日)H21年4月入学生修了者・修士学位論文中間発表会(於・VBSセミナーホール9・45~12・10)
・十一月二十二日(月)もちとみらいコンソーシアム第4回研究会(於・街中サテライト14・00~15・30)「経済のグローバル化とリーマンショック後の日本企業の課題」日本福祉大学教授毛利良一氏(MOT事務局)

《編集後記》

猛暑を乗り越えて、すっかり秋の兆しですが、皆様もお変わりなく御過ごしの事と思います。学内も100周年を迎えて、記念行事や記念館のオープン等で大賑わいの様相でした。当機関誌も御蔭様で、第五号の発刊を迎えることが出来ました。皆様の御協力に感謝致します。尚、今回テスト的に紙面を増やし、新たに「皆様からの自由投稿のページ」を追加いたしました。身近なところのニュース、自社のPR、新製品紹介等々、何でも結構ですので、是非情報を御寄せ下さい。御待ち致します。それでは秋晴れの下、草葉を頂きながら季節の実感を味わいましょう！そして、お互い健康に留意して頑張りましょう！(編集委員一同)